

---

# 一分進んだ時計

緋村 螢

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

一分進んだ時計

### 【Nコード】

N7044A

### 【作者名】

緋村 螢

### 【あらすじ】

非恋の物語です。切なくて、でも・・・離れたくない。たった1分だけ。1分の夢を見よう。

**（前書き）**

非恋です。でも何かを見つけてください。  
自分にとっての宝物を。

ある日、ふと時計を見た。

その時間は・・・

「 1 分 進 ん だ 時 計 」

今日は11月21日。

中間試験の真つ最中。

少し早めに終わった。

時間は10：40。

だから、校庭を見下ろしていた。

すると・・・

あれ??

そこには奈良先輩が居た。

何で奈良先輩がいるんだろ？今は試験中の筈なんだけど・・・

奈良先輩は猫を頭に乗せて微笑んでいた。

何で猫？でも、楽しそうだな。

奈良先輩は高2。

私は中1。

同じ部活に入らなかったら、同じ学校に入らなかったら、きっと出会えなかった。

私は奈良先輩のあの笑顔が大好きだ。

奈良先輩は私が部活入りたての頃もあの笑顔で笑ってくれた。

でも、もう引退かもしれない。

それは、絶対に嫌だ。

ハッ・・・

ふと涙が零れ落ちそうになる。

あれ？試験は？

もう結構時間が経った気がした。

・・・ん？！

時間は経っていたけど皆止まっている。

これは何なのだろうか。

・・・私に時間をくれたのかもしれない。

もしかしたら始めから時間が止まっていたのかもしれない。

私はどうしたらいいのだろう・・・

とりあえず何処かへ。

そして、やっぱり私の足は校庭へ。

勿論、奈良先輩に会いたかったのだろう。

ふう・・・

「奈良先輩!!」

「・・・っ!？」

奈良先輩の時間は止まってなかった。

「なっ!大村?!」

「な、何をしているんですか？」

「え?あ、ああ。木に猫がいたから助けてた。」

「そうなんですか。」

「お前は何してるの?中等部は試験中だろ?」

「え?あっ・・・窓から先輩が見えたもので・・・」

「へえ。俺追ってきたんだ。」

「／／／そう・・・かもしれませんね。」

「良い後輩持ったなー俺。」

「・・・え？」

「俺さ今凄い泣きたい気分でさ、誰かに泣きつきたかった。そしたら大村が来た。」

何で泣きそうなんだろう？

彩乃にはこの答えはまだ分からない。

「な、何で泣きたかったんですか？」

「俺、もうそろそろ引退だけど誰か悲しんでくれるかなあって思ったら。」

実際は違う。

「そ、そりゃあ悲しみますよー！」

「だって皆俺の事怖がつてるし？」

「少なくとも私は、悲しみます。さっきも・・・／／／」

「さつきも？」

「考えてたら泣きそうになりました。」

「・・・っ！」

「私は奈良先輩が大好きです。」

奈良先輩は泣いていた。

「なっ 奈良先輩?!」

「いや、そこまで想ってくれてたんだって思ってた。」

「／／／」

「俺も好きだよ。」

私も泣いてしまった。 凄い幸せだった。

でも、

その幸せは

しまった。

何処かへ行つて

もうお別れだ。

奈良先輩は何処へ行くのですか？

私を置いていかないで。

ごめん。俺もずっと一緒にいたかった。

瞬きをしたら、そこは机の上。

不意に時計を見た、そしたら・・・10：41

私が校庭を見てから1分しか経っていない。

次の日、奈良先輩は死んだという連絡があった。

木に登って降りれなくなった猫を助けて、トラックがその木にぶつかって・・・

あれは奈良先輩が見せてくれた夢だったのかもしれない。

私の時計は普通の時間よりも1分進んでいた。

ずっと見ていてください。

私は絶対に忘れません。

この1分進んだ時計は・・・

この1分は奈良先輩がくれたものだから。

大好きだから、悲しい。

大好きだから離れたくない。

どうでも良い人なら、泣いたりはしない。

奈良先輩、貴方だから泣いてしまった。

だから、奈良先輩も私のことを覚えていてください。

（後書き）

非恋ですいません。でもコレを読んで貴方の何かが変われば・・・。  
たった1分の時間でも大切にもらいたい。そう思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7044a/>

---

一分進んだ時計

2010年10月17日06時48分発行